



山形県飛島から得られた同島初記録のミミズハゼとダイダイイソミミズハゼ、および後者の北限更新記録

赤池貴大¹・是枝伶旺²・本村浩之³

Author & Article Info

¹ 株式会社エコリス (仙台市)

akaike@ecoris.co.jp (corresponding author)

² 鹿児島大学大学院連合農学研究科 (鹿児島市)

k4920583@kadai.jp

³ 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Received 09 July 2025

Revised 20 July 2025

Accepted 21 July 2025

Published 22 July 2025

DOI 10.34583/ichthy.57.0_34

Takahiro Akaike, Reo Koreeda and Hiroyuki Motomura. 2025. First records of two earthworm gobies, *Luciogobius guttatus* and *Luciogobius yubai*, from Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Sea of Japan, northern Japan, with northernmost record of *L. yubai*. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 57: 34–39.

Abstract

A single specimen of *Luciogobius guttatus* Gill, 1859 and two specimens of *Luciogobius yubai* Ikeda, Tamada and Hirashima, 2019 were for the first time collected from the intertidal zone of the rocky coast at Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Sea of Japan, northern Japan. Since *L. yubai* has previously been recorded only from Niigata Prefecture (Sado Island) to Kagoshima Prefecture (Kagoshima Bay), the Tobi-shima specimens represent the northernmost records of the species.

ミミズハゼ属 *Luciogobius* Gill, 1859 は体が細長く、脊椎骨数が31以上と多いこと、鱗をもたないこと、第1背鰭とその担鰭骨を通常欠くことなどの特徴により他のハゼ垂目魚類と識別され、構成種の多くが砂礫の間隙に生息している (渋川ほか, 2019, 2020)。また、本属魚類は現在では23名義種が知られているが (Koreeda and Motomura, 2022; Koreeda et al., 2023; Chen and Liao, 2024; Chen et al., 2024a, b), その他にも多くの未記載種の存在が示唆されている (例えば, 渋川ほか, 2019)。

2023年3月に山形県飛島からミミズハゼ *L. guttatus* Gill, 1859 とダイダイイソミミズハゼ *L. yubai* Ikeda, Tamada and Hirashima, 2019 が採集された。前者は日本国内において北海道から屋久島 (明仁ほか, 2013; 渋川ほか, 2019), 後者は新潟県佐渡島から鹿児島湾 (渋川ほか, 2019; Ikeda et

al., 2019; 是枝ほか, 2020; 斉藤・難波, 2022) にかけて分布が知られていた。飛島は日本海の北東部に位置する周囲10 kmほどの島であり、ミミズハゼ属魚類はオオミミズハゼ *L. grandis* Arai, 1970 のみが報告されていた (松浦・新井, 1984)。したがって、本研究において得られたミミズハゼとダイダイイソミミズハゼは共に山形県飛島からの初めての記録であり、後者は分布北限を更新する記録であるため、ここに報告する。

材料と方法

標本は全て干潮時に採集したため、各種の「標本」の項に示した水深は干潮時のものである。標本の計数・計測方法は Koreeda et al. (2023) にしたがったが、背鰭と臀鰭は棘と軟条を分けて計数した。標準体長は体長または SL と表記した。体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mm 単位まで行い、計測値は体長に対する百分率で示した。形態の記載は固定後の標本観察に基づく。体各部の観察には双眼実体顕微鏡、内部形態の観察には軟 X 線写真を用いた。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。

Luciogobius guttatus Gill, 1859

ミミズハゼ

(Fig. 1; Table 1)

標本 KAUM-I. 181329, 体長 63.5 mm, 山形県酒田市飛島法木甲 飛島, 39°11'58"N, 139°32'53"E, 水深 0.1 m, 2023 年 3 月 20 日, 徒手, 真部和代。

記載 計数形質と各体部の体長に対する割合は Table 1 に示した。体は円筒形で細長く、後半部では側扁する。頭は縦扁する。眼はやや小さく、頭部の背側に位置し、その輪郭は頭部側面から突出するが、薄い皮下に埋没する。眼の後縁に皮弁は発達しない。両眼間隔は広い。前鼻孔は短い管状の皮弁をもち、その基部は眼の前方の上唇直後



Fig. 1. Fresh specimen of *Luciogobius guttatus* (KAUM-I. 181329, 63.5 mm SL) from Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Japan. A: dorsal view; B, lateral view; C, ventral view.

に位置する。後鼻孔は眼の直前に位置し、やや横長の楕円形でその長径は瞳孔より短い。前鼻孔の直下から眼の直後付近にかけての頬部には小さく波打つ縦方向の皮褶をもつが、細長いヒゲ状の突出はもたない。頭部背面は眼の直後から前鰓蓋骨後縁のやや後方にかけて強く膨らむが、両眼間隔域から正中線にかけては凹む。頤の皮弁は前縁が癒合し、その先端は僅かにへこむが、1対の板状の皮弁にはならない。口裂は端位で大きく、上顎後端は眼の後縁よりやや後方に位置する。下顎先端は上顎先端より突出する。上顎には円錐歯が内側を向いて並ぶ。上顎の最外列の歯は細長く1列に並び、その内側には最外列歯の半分にも満たない短い歯が歯帯を形成する（後方ほど狭い）。下顎には上顎の最外列歯と内側歯の中間程度の大きさの歯が歯帯を形成する。舌は口床から遊離し、その先端は丸みを帯びる。鰓孔は狭く、胸鰭基底上端の直下から胸鰭基底下端のやや下方にかけて開孔する。鰓膜後縁は概ね後方に張り出した弧を描くが、下部ではわずかに湾入する。肛門は体の中央よりわずかに後方に位置する。泌尿生殖孔突起はやや細長い楕円状で、腹面に縦方向に1列のスリットをもつ。

背鰭は1基で、他のハゼ亜目魚類の第2背鰭に相当する。背鰭の起部は肛門の後方直上に位置する。背鰭の外縁

は第4軟条先端にかけて上昇したのち最終軟条先端にかけて緩やかに下降する。臀鰭は背鰭と概ね同じ大きさで、その起部は背鰭よりやや前方に位置し、肛門との距離が近い（肛門直上における体高の35.2%）。臀鰭の外縁は第3軟条先端にかけて下降したのち最終軟条先端にかけて緩やかに上昇する。基底の後端部は背鰭基底後端よりわずかに前方に位置する。背鰭と臀鰭の最後方の軟条は基部で分枝し、その後方の軟条は前方のものより短く、後縁部に微小な突起構造はない。胸鰭はやや大きな円形で、上端の1軟条が遊離する（遊離部の長さは二叉部から直後の鰭条先端までの48.9%）。胸鰭上端の遊離軟条と下端の軟条の下縁には微小な棘状突起が並ぶ。胸鰭の基底部は頭部後端の直後にある。腹鰭は小さな吸盤状で、左右が膜で繋がる。膜蓋の後縁はやや湾入し、鈍い2葉状。膜蓋直前には横方向に浅い1つの溝がある。尾鰭は円形。

色彩 生鮮時 (Fig. 1) — 体は緑褐色で体背面ほど濃く、ほぼ全身に微小な黒色点を多数もち、眼径より小さく淡い緑色を呈する概ね円形の斑が多数ある。頤直後から肛門付近にかけての体腹面は緑や黒色の色素が少なく、淡い肌色から白色の半透明で、腹部は僅かに青みがかかる腹膜が透けてみえる。背鰭は体部と概ね同じ色彩で、鰭膜の先端部は

半透明。臀鰭は白色の半透明で、微小な黒点が散在するほか、部分的にやや緑みを帯びる。胸鰭は緑褐色の半透明で体部同様の淡色斑をもち、外縁部ほど淡い。腹鰭はわずかに赤みを帯びた白色半透明。尾鰭は胸鰭同様の色彩だが、外縁部の狭い範囲が不明瞭な白色半透明域を形成する。

分布 本種は日本、朝鮮半島全沿岸、済州島、および中国（遼寧省から浙江省）に分布し、日本国内においては北海道から屋久島まで記録されている（明仁ほか，2013）。

採集地の環境 飛島の西部に位置する岩礁性の海岸であり、背後の山肌から淡水の流入がある。底質は露出した



Fig. 2. Habitat of *Luciogobius guttatus* and *L. yubai* in Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Japan.

Table 1. Counts and measurements of *Luciogobius guttatus* and *L. yubai* from Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Japan.

KAUM-I.	<i>L. guttatus</i>	<i>L. yubai</i>	
	181329	181330	181331
Standard length (SL; mm)	63.5	46.4	46.3
Counts			
Total dorsal-fin elements	I, 11	I, 9	I, 9
Total anal-fin elements	I, 12	I, 9	I, 9
Pectoral-fin rays	18	17	12
Pectoral-fin free rays	1	1	0
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5	I, 5
Caudal-fin segmented rays	10 + 8	9 + 8	9 + 8
Vertebrae	17 + 21 = 38	16 + 19 = 35	17 + 17 = 34
P-V	18-19	17	17-18
AP*	2	1	1
Measurements(%SL)			
Head length	24.6	24.5	26.1
Head depth	9.2	10.9	11.1
Head width	12.6	14.1	16.1
Snout length	6.3	5.8	5.8
Upper-jaw length	10.0	10.5	12.3
Eye diameter	2.8	2.8	3.2
Interorbital width	4.2	4.3	5.0
Body depth at pelvic-fin origin	8.7	10.8	10.3
Body depth at anal	9.3	10.3	9.5
Body depth at anal-fin origin	9.1	10.2	10.1
Body width	8.7	10.5	10.0
P2 A length	31.2	28.8	28.0
AAA	3.4	2.4	2.4
Least caudal-peduncle depth	7.5	7.6	8.2
Maximum caudal-peduncle depth	8.6	8.6	8.5
Caudal-peduncle length	19.2	20.0	17.2
Pre-anal length	59.7	63.9	65.2
Pre-second dorsal-fin length	65.7	68.3	68.3
Pre-anal-fin length	63.9	67.5	68.5
Pre-pelvic-fin length	24.0	26.5	26.5
Second dorsal-fin base length	18.1	15.6	16.1
Anal-fin base length	17.5	15.5	15.2
Longest dorsal-fin ray length	7.7	9.7	10.9
Longest anal-fin ray length	6.7	9.3	9.5
Pectoral-fin length	10.7	14.4	11.4
Pelvic-fin length	4.1	9.1	9.3
Caudal-fin length	13.0	16.1	17.1

*Number of anal-fin pterygiophores anterior to anteriormost hemal spine.

岩盤からなり、岸沿いには転石が堆積している。本種は岸沿いに堆積する 20 cm ほどの転石下から採集された (Fig. 2)。

備考 飛島から得られた標本は、背鰭が 1 棘 11 軟条（総鰭条数 12）であること、臀鰭が 1 棘 12 軟条（総鰭条数 13）であること、胸鰭上端の 1 鰭条が遊離すること、胸鰭条数が 18 であること、尾鰭分節条数が $10 + 8 = 18$ であること、脊椎骨数が $17 + 21 = 38$ であること、肛門から臀鰭起部（AAA）の長さが肛門直上における体高の半分以下であること、および背鰭基底長が背鰭基底後端から下尾骨後端までの水平長より短いことが渋川ほか（2019）の示したミミズハゼの形態的特徴に一致したため、本種に同定された。

渋川ほか（2019）は本種が通常、河川感潮域から河川水の影響を強く受ける沿岸域の潮間帯から潮下帯に生息するとしつつも、塩分の高い環境においても局所的な淡水流入の直下であれば多くの個体数が確認される事例を報告していた。飛島産標本の採集地はこの後者の生息環境に一致する。本研究においては多くの個体数は得られておらず、飛島には目立った河川が存在しないため（松浦・新井，1984），飛島における本種の生息規模は大きくないと考えられる。

本種の記録は「分布」の項で示した通りであるが、飛島の魚類相の報告した松浦・新井（1984）において記録されていない。したがって、本標本はミミズハゼの飛島における初記録となる。

Luciogobius yubai Ikeda, Tamada and Hirashima, 2019

ダイダイイソミミズハゼ

(Fig. 3; Table 1)

標本 KAUM-I. 181330, 体長 46.4 mm, KAUM-I. 181331,

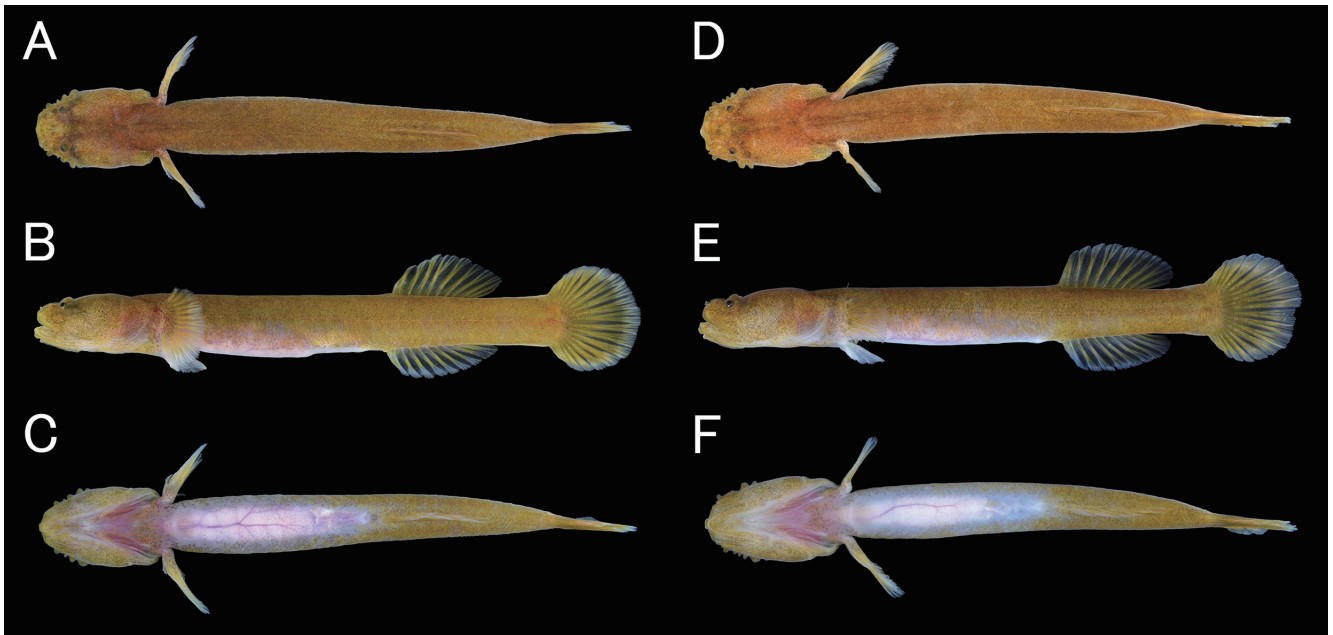


Fig. 3. Fresh specimens of *Luciogobius yubai* (A–C: KAUM-I. 181330, 46.4 mm SL; D–F: KAUM-I. 181331, 46.3 mm SL) from Tobi-shima island, Yamagata Prefecture, Japan. A, D: dorsal view; B, E: lateral view; C, F: ventral view.

体長 46.3 mm, 山形県酒田市飛島法木甲 飛島, 39°11'58" N, 139°32'53"E, 2021 年 3 月 15 日, 水深約 0.1–0.2 m, 徒手, 真部和代.

記載 計数形質と各体部の体長に対する割合は Table 1 に示した. 体は円筒形でやや長く, 後半部では側扁する. 頭は縦扁する. 眼はやや小さく, 頭部の背側面に位置し, その輪郭は頭部側面から突出するが, 薄い皮下に埋没する. 眼後縁の皮弁は後下方を向いて鈍く突出する. 両眼間隔は広い. 前鼻孔は短い管状の皮弁をもち, その基部は眼の前方の上唇直後に位置する. 後鼻孔は眼の直前に位置し, 概ね円形で直径は瞳孔よりわずかに短い. 前鼻孔の直下から眼の直後付近にかけての頬部にある縦方向の皮褶はよく発達し, 複数のやや幅広いヒゲ状の突出となる. 頭部背面は眼の直後から前鰓蓋骨後縁のやや後方にかけて強く膨らむが, 両眼間隔域から正中線にかけては凹む. 頤の皮弁は前縁が癒合し, その先端は丸い. 口裂は端位で大きく, 上顎後端は眼の後縁よりもやや後方に位置する. 下顎先端は上顎先端より突出する. 上顎には円錐歯が内側を向いて並ぶ. 上顎の最外列の歯は細長く 1 列に並び, その内側には最外列歯の半分にも満たない短い歯が歯帯を形成する (後方ほど狭い). 下顎には上顎の最外列歯と内側歯の中間程度の大きさの歯が歯帯を形成する. 舌は口床から遊離し, その先端は丸みを帯びる. 鰓孔は狭く, 胸鰭基底上端の直下から胸鰭基底下端のやや下方にかけて開孔する. 鰓膜後縁は概ね後方に張り出した弧を描くが, 下部ではわずかに湾入する. 肛門は体の中央よりやや後方に位置する. 泌尿生殖孔突起は 2 個体ともやや細長い楕円状で, 腹面に縦方向に 1 列のスリットをもつが, KAUM-I. 181330 ではより丸く, KAUM-I. 181331 では先端がやや尖る.

背鰭は 1 基でやや大きく, 他のハゼ亜目魚類の第 2 背鰭に相当する. 背鰭の起部は肛門の後方直上に位置する. 背鰭の外縁は第 3 軟条先端にかけて上昇したのち最終鰭条先端にかけて緩やかに下降する. 臀鰭は背鰭とおおむね同じ大きさで, その起部は KAUM-I. 181330 では背鰭よりわずかに前方に位置し, KAUM-I. 181331 では概ね同一垂線上にあり, 共に肛門との距離が近い (肛門直上における体高の 23.3–25.9%). 臀鰭の外縁は第 2 軟条先端にかけて下降したのち最終軟条先端にかけて緩やかに上昇する. 基底の後端部は背鰭基底後端と同一垂線上に位置する. 背鰭と臀鰭の最後方の軟条は基部で分枝し, その後方の軟条は前方のものより短く, 後縁部に微小な突起構造はない. 胸鰭はやや大きな円形で, 上端の 1 軟条が遊離する (KAUM-I. 181330 では遊離部の長さは二叉部から直後の鰭条先端までの 58.1%; KAUM-I. 181331 では左体側の胸鰭上部と下部が委縮しており, 上端の鰭条は遊離しない). 胸鰭上端の遊離軟条と下端の 1 軟条の下縁には微小な棘状突起が並ぶ. 胸鰭の基底部は頭部後端の直後にある. 腹鰭はやや大きな吸盤状で, 左右が膜で繋がる. 膜蓋の後縁はやや湾入し, 鈍い 2 葉状. 膜蓋直前には横方向に浅い 1 つの溝がある. 尾鰭はやや大きな円形.

色彩 生鮮時 (Fig. 3) — 体はオレンジ色で, ほぼ全身に微小な黒色点を多数もつ. 頤直後から肛門付近にかけての体腹面は緑や黒色の色素が少なく, 淡い肌色から白色の半透明で, 腹部は白色から淡いピンク色の腹膜が透けてみえる. 背鰭, 臀鰭, 尾鰭は体部よりやや淡く, 鰭条は黄色みの強いオレンジで部分的に赤みが強く, 鰭膜は基部が黄色味を帯びた白色半透明. 胸鰭は鰭条が黄色みの強いオレンジで鰭膜は白色半透明. 腹鰭はわずかに赤みを帯びた白色

半透明。

分布 本種は日本国内からのみ知られており、山形県飛島（本研究）、新潟県佐渡島 [本間・水沢, 1980（コマハゼとして）；Honma and Kitami, 1980（コマハゼとして）；Honma, 1991（コマハゼとして）；本間, 1992（コマハゼとして）；Yamada et al., 2009（Gen sp. 1 として）], 静岡県伊豆半島 [Yamada et al., 2009（Gen sp. 1 として）；渋川ほか, 2019; Ikeda et al., 2019], 和歌山県 [小寺, 2005（ミミズハゼ属の一種として）；藍澤, 2006（ミミズハゼ属の一種 16 として）；Yamada et al., 2009（Gen sp. 1 として）；渋川ほか, 2019; Ikeda et al., 2019；平嶋, 2018（イドミミズハゼの一種として）, 2020, 2022], 兵庫県家島諸島（渋川ほか, 2019）、高知県（斉藤・難波, 2022；小野・高橋, 2024）、長崎県福江島 [Yamada et al., 2009（Gen sp. 1 として）], 鹿児島県長島（是枝・本村, 2024）、および鹿児島湾（是枝ほか, 2020）から記録されている。

採集地の環境 ミミズハゼの「採集地の環境」の項で示した岩盤の割れ目にある潮だまりに沈んでいる礫の直下から採集された (Fig. 2)。

備考 飛島から得られた標本は、背鰭と臀鰭がそれぞれ 1 棘 9 軟条（総鰭条数 10）であること、胸鰭上端の 1 鰭条が遊離すること（KAUM-I. 181331 では右側のみ）、KAUM-I. 133130 は胸鰭条数が 17 であること（KAUM-I. 181331 については後述）、尾鰭分節条数が $9 + 8 = 17$ であること、脊椎骨数が $16 + 19 = 35$ または $17 + 17 = 34$ であること、肛門から臀鰭起部（AAA）の長さは肛門直上における体高の半分以下であること、眼下にヒゲ状の突起を複数もつこと、および生鮮時の体色はオレンジ色を呈することが渋川ほか（2019）と Ikeda et al. (2019) の示したダイダイイソミミズハゼ *Luciogobius yubai* の形態的特徴に一致したため、本種に同定された。

KAUM-I. 181331 は左体側の胸鰭上部と下から 4 鰭条目の付近が委縮しており、遊離鰭条をもたず、鰭条数も 12 と少なかった（ただしミミズハゼ種群の特徴である胸鰭上下縁の微小な棘状突起は存在する）。こうした事例は、渋川ほか（2019）においても静岡県産のダイダイイソミミズハゼ 1 個体で確認されている。

ダイダイイソミミズハゼは潮間帯下部の礫上にある転石下や礫中、潮間帯上部の淡水滲出がある礫層、基質に埋没した転石下などから報告されているが（渋川ほか, 2019; Ikeda et al., 2019；是枝ほか, 2020；是枝・本村, 2024）、高知県においては岩盤基質などのタイドプールに堆積した礫中からも報告されている（斉藤・難波, 2022；小野・高橋, 2024）。本研究における採集地も岩盤上の窪地であり、高知県の事例に近い。

本種のこれまでの記録は「分布」の項で示した通りであり、飛島産の標本は本種の北限記録および山形県初

記録となる。なお、小寺（2005）のミミズハゼ属の一種 *Luciogobius* sp. は、各鰭の鰭条数や眼下の突起の形状（頬部に 6 対の皮皺があると表記）に加えて、体色（柿色と表記）がダイダイイソミミズハゼの特徴と一致したため、本種に同定した。また、その他にも藍澤（2016）のミミズハゼ属の一種 16 と Yamada et al. (2009) の Gen sp. 1 の記録は渋川ほか（2019）によって、本間・水沢（1980）のコマハゼと Yamada et al. (2009) の Gen sp. 1 は Ikeda et al. (2019) によって、平島（2018）のイドミミズハゼの一種 *Luciogobius* sp. は山下ほか（2021）によって、Honma and Kitami (1980), Honma (1991), および本間（1992）のコマハゼは是枝・本村（2022）によってダイダイイソミミズハゼ *L. yubai* に再同定されている。

本種の国内における分布はやや南偏しているが、従来の北限であった佐渡島において本種は少なくとも 1972 年より生息が確認されており（Ikeda et al., 2019）、9 月中旬に卵塊が確認されているほか（本間・水沢, 1980）、オオミミズハゼと共に釣り餌として用いられている（本間, 1992）ことから、ある程度の個体群が維持されていると考えられる。飛島において得られた個体は 3 月に得られた大型の 2 個体であり、飛島においても越冬が可能と考えられるが、再生産の有無については不明である。周辺海域にも本種が生息する可能性は高く、本種の分布実態については更なる調査を要する。

謝 辞

本研究を取りまとめるにあたり、株式会社エコリスの真部和代氏には標本を提供していただき、採集環境についてご教示いただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生やボランティアのみなさまには、標本の作製および登録作業においてご協力いただいた。Ichthy 編集委員の宮本 圭氏と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館の橋本達也氏には軟 X 線写真の撮影にご協力頂いた。以上の皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げる。以上の方々に謹んで御礼申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」、JSPS 科 研 費 (20H03311・21H03651・23K20304・24KJ1838)、JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009)、文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」、および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業（奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル）の援助を受けた。

引用文献

- 藍澤正宏. 2006. 平成 17 年度マリンサイエンスギャラリー「～これもハゼ, これでもハゼ～ハゼの世界」. 千葉県立中央博物館分館海の博物館, 勝浦. 23 pp.
- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- Chen, K.-H. and T.-Y. Liao. 2024. A new species of the genus *Luciogobius* Gill, 1859 (Teleostei, Oxudercidae) from Taiwan. *Zookeys*, 1206: 241–254.
- Chen, I.-S., Y.-S. Ren, G.-C. Jiang, S.-C. Wang and C.-W. Chang. 2024a. Three new species of *Luciogobius* Gill (Teleostei: Gobiidae) from Taiwan. *Zootaxa*, 5550: 200–212.
- Chen, I.-S., Y.-T. Shao, L.-C. Chou, K.-S. Chen and C.-W. Chang. 2024b. Two new species of *Luciogobius* Gill (Teleostei: Gobiidae) from the Matsu Islands in Taiwan. *Zootaxa*, 5550: 189–199.
- 平嶋健太郎. 2018. 和歌山県荒船海岸潮間帯に出現するミミズハゼ属魚類. *南紀生物*, 60: 38–41.
- 平嶋健太郎. 2020. 紀州の鯊 75 アカツキミミズハゼ (暁蚯蚓鯊). 和歌山県立自然博物館だより, 38 (1): 8.
- 平嶋健太郎. 2022. ダイダイイソミミズハゼ, p. 162. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室 (編) 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— [2022 年改訂版]. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室, 和歌山.
- Honma, Y. 1991. A list of fishes found in the vicinity of Sado Marine Biological Station-VII. Report of Sado Marine Biological Station, Niigata University, 21: 11–35.
- 本間義治. 1992. 新潟県 海の魚類図鑑. 新潟県日報事業社, 新潟. 358 pp.
- Honma, Y. and T. Kitami. 1980. A list of the fishes found in the vicinity of Sado Marine Biological Station-VI. Annual Report of the Sado Marine Biological Station, Niigata University, 10: 27–48.
- 本間義治・水沢六郎. 1980. 新潟県魚類目録補訂 (X). 日本生物地理学会報, 35: 49–60.
- Ikeda, Y., K. Tamada and K. Hirashima. 2019. *Luciogobius yubai*, a new species of gobioid fish (Teleostei: Gobiidae) from Japan. *Zootaxa*, 4657: 565–572.
- 小寺昌彦. 2005. 錆浦地先で採集された魚種 (3) 錆浦産ハゼ科魚類. マリンパビリオン, 34 (3): 4–5.
- Koreeda, R., K. Maeda and H. Motomura. 2023. A new subtropical species of goby of the genus *Luciogobius* (Gobiidae) from southwestern Japan. *Zootaxa*, 5361: 390–408.
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2022. *Luciogobius punctilineatus*, a new earthworm goby from southern Japan. *Zootaxa*, 5138: 137–151.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2022. 宮崎県から得られたコマハゼとクロコマハゼ南限記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 20: 13–25.
- 是枝伶旺・本村浩之. 2024. 天草諸島長島から得られたダイダイイソミミズハゼ. *Nature of Kagoshima*, 51: 29–31.
- 是枝伶旺・清水直人・本村浩之. 2020. 鹿児島湾から得られた南限記録となるダイダイイソミミズハゼの記載と本種の生態学的新知見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 3: 51–55.
- 松浦啓一・新井良一. 1984. 飛島海産魚類. 国立科学博物館専報, 17: 163–171.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp.
- 小野 暁・高橋弘明. 2024. 高知県室戸岬で採集されたダイダイイソミミズハゼ. 南予生物フィールドノート, 2024: 24011.
- 斉藤洪成・難波拓登. 2022. 高知県大月町から得られた四国初記録のダイダイイソミミズハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 21: 27–30.
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之. 2020. *Inu Snyder, 1909 とは何か?* —コマハゼ属の再定義および関係する砂礫間隙性ハゼ類の放散に関する考察. *東海自然誌*, 13: 79–116.
- 渋川浩一・藍澤正宏・鈴木寿之・金川直幸・武藤文人. 2019. 静岡県産ミミズハゼ属魚類の分類学的検討 (予報). *東海自然誌*, 12: 29–96.
- Yamada, T., T. Sugiyama, N. Tamaki, A. Kawakita and M. Kato. 2009. Adaptive radiation of gobies in the interstitial habitats of gravel beaches accompanied by body elongation and excessive vertebral segmentation. *BMC Evolutionary Biology*, 9: 145.
- 山下龍之丞・菅 駿之介・碧木健人・山川宇宙. 2021. 石川県および兵庫県日本海沿岸から得られたイドミミズハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 10: 13–20.